

5 宇部市の他地域との結びつきにはどのような特色があるだろうか

ここからは、「宇部市と他地域との結びつき」を通して、宇部市の地域的特色について考えていきます。みなさんは、「他地域との結びつき」と聞いて、どんなイメージをもちますか。

わたしたちの生活は、世界や国内の他の地域との結びつきの影響を受けながら日々変容しています。「他地域との結びつき」とは、例えば「高速道路など地域の交通網が開通したことで、物や人の移動にどのような変化がでてきたか」や「インターネットの普及など通信網が発達したことで地域の生活にどんな変化がでてきたか」などの特色をいいます。これまでみてきた自然環境や人口など宇部市の地域的特色と関連付けながら、宇部市と他地域との結びつきの特色をみていきましょう。

(1) 山口県のおもな交通網

山口県は、本州の西端に位置し、本州と九州を結ぶ交通の要衝です。県内には、山陽自動車道・中国自動車道などの高速道路、山陽本線、山陰本線、美祢線などの鉄道や山陽新幹線が走り、人やものの移動が便利です。このほか、福岡県と山口県の県境には、関門海峡があり、日本海と瀬戸内海を結ぶ重要な航路です。この海峡には、関門トンネル、関門橋があり、本州と九州の行き来が容易になっています。また、山口宇部空港は、山口県の空の玄関口です。

◎ 山口県のおもな交通網



「山口県HP」から

◎ 本州と九州を結ぶ 陸路・航路



関門橋

関門トンネル

関釜フェリー



◎ 空の玄関口 山口宇部空港 大型飛行機が発着できる2500m滑走路



(2) 宇部市の陸、海、空の結びつき

現在、宇部市では高速道路、港湾、そして空港といった交通網の整備が着々と進んでいます。これに伴い、私たちの生活はより便利になってきましたが、その一方で課題も挙げられます。それでは、「陸と海と空の交差点～宇部市」の姿を見ていきましょう。

① 陸の結びつき

宇部市内にはどのような交通網が整備されているのでしょうか。

陸上では道路、鉄道が挙げられます。宇部近隣では山陽自動車道の高速道路、一般道として国道2号線を始め国道190号線・490号線などの国道から県道、市道が通っています。

近年は、山口宇部道路の無料開放や、宇部湾岸道路の開通など、様々な道路整備が進められています。

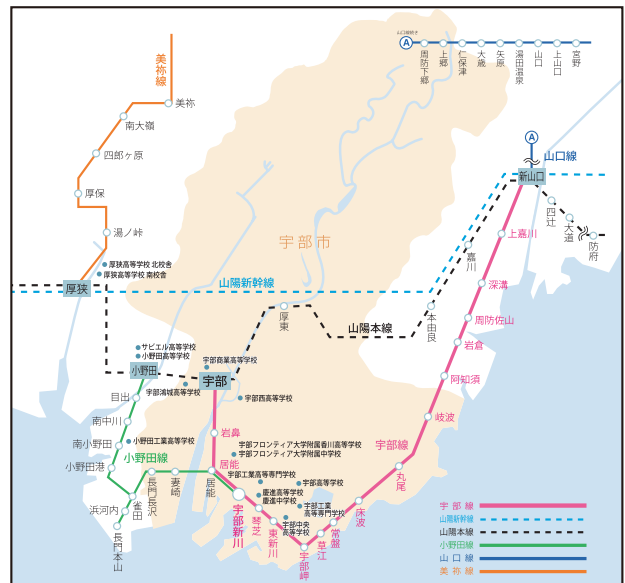
また、市内には路線バス網や山陽本線・宇部線などの鉄道路線が整備されていますが、近年は自家用車の普及により、公共交通機関を利用する人が減少し、路線や便数の減少につながっています。公共交通機関をどのように維持していくかが今後の大きな課題となっています。

【やってみよう】

右の表は、JR宇部線の各駅の1日平均旅客数を表しています。

- 平成18年度と令和元年度を比べるとどのようなことが言えますか。
- これらの駅は、宇部の中でどのような場所ですか。他の地域的な特色と関連づけて考えてみましょう。

◎ 宇部市周辺のおもな交通網



「宇部市公共交通マップ」から

◎ JR宇部線各駅の1日平均旅客数

駅名	1日平均旅客数（人）	
	平成18年度	令和元年度
上嘉川	60	57
深 溝	73	85
周防佐山	74	54
岩 倉	41	21
阿知須	352	311
岐 波	165	209
丸 尾	266	215
床 波	359	359
常 盤	111	126
草 江	84	85
宇部岬	228	206
東新川	371	459
琴 芝	634	666
宇部新川	1,277	827
居 能	224	186
岩 鼻	427	261

「JR西日本HP」から

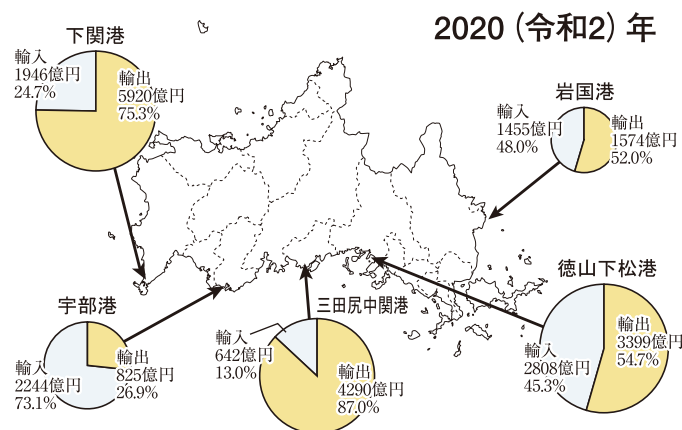
② 海の結びつき

ここでは、宇部の海の玄関口「宇部港」と貿易を関連付けて「他地域との結びつき」の特色を見てみましょう。

宇部市南部は、周防灘に面しています。昭和初期に炭鉱の廃土（ボタ）で埋め立てが行われ、近代的な港である「宇部港」が建設されました。宇部港は、1951（昭和26）年に重要港湾の指定を受け、国・県・市により各種の港湾施設の整備・拡充が図られました。近年では、大型船舶の接岸可能な岸壁を完成させました。また、1990（平成2）年に植物検疫港としての指定を受け、国際貿易港としての機能の拡充も図ってきました。そして、現在は、「宇部港湾計画」に基づき、港湾施設の整備と機能の拡充を図っています。

2019（令和元）年の宇部港での貿易額は、およそ4875億円で、これは県内の主要な港のうち4番目の多さです。貿易額のうち、輸出額は1083億円、輸入額は3792億円で、輸入超過ということがわかります。すなわち、宇部港は、輸入港としての役割が大きいことがわかります。

◎ 山口県内の主要な港での輸出入額



◎ 宇部港の主な貿易相手国・地域

貿易額上位5カ国（2020年）

	輸 出	輸 入
1	大韓民国	サウジアラビア
2	中華人民共和国	アラブ首長国連邦
3	スイス	オーストラリア
4	シンガポール	ロシア
5	アメリカ合衆国	インドネシア

「宇部税関支署管内貿易概況より」から

「下関・宇部・岩国・徳山（各）税関支署管内貿易概況」から

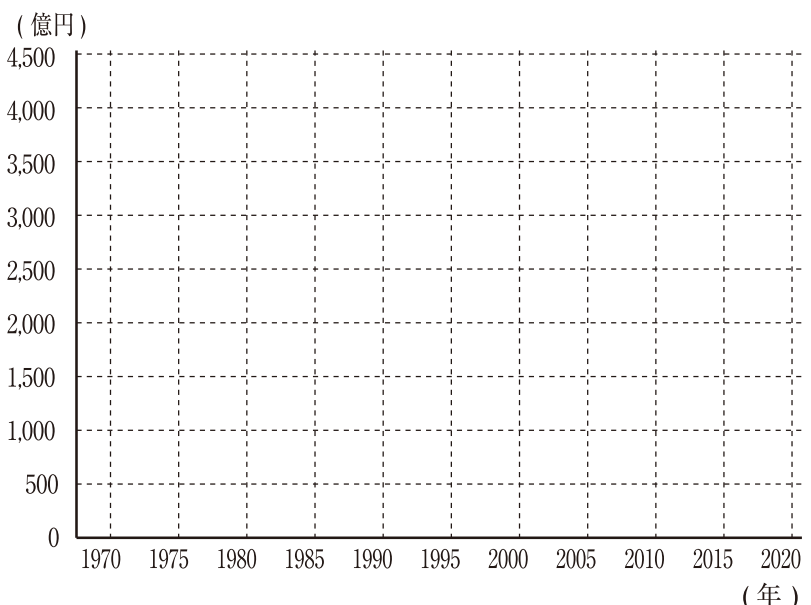
下表は、宇部港における輸出額、輸入額の推移を示しています。表をもとにグラフを作ってみよう。

◎ 宇部港における貿易額の推移

年	輸出額	輸入額
1970	100	95
1975	462	1221
1980	832	3644
1985	696	2729
1990	513	1493
1995	561	1040
2000	540	1040
2005	895	2683
2010	976	3698
2015	1275	3547
2020	825	2244

（単位：億円）

「宇部税関支署管内貿易概況（令和2年）」から



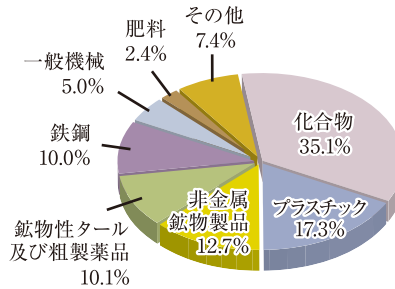
【やってみよう】

- 宇部港へはどのようなものが主に輸入されていますか。
- 主要品目別輸出入額のグラフから特色を調べてみましょう。
- また、それらはどこの国から輸入されているのでしょうか。

◎ 宇部港の主な貿易品目

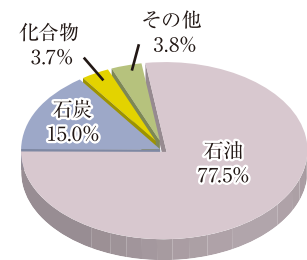
主要品目別輸出額

輸出総額825億円 2020(令和2)年



主要品目別輸入額

輸入総額2,244億円 2020(令和2)年
宇部税関支署発表より



③ 空の結びつき

つぎに、空の結びつきについてみていきましょう。山口県の空の玄関口と言えば「山口宇部空港」ですね。みなさんの中には、山口宇部空港を利用して、東京などに出かけた人もいることでしょう。

山口宇部空港は、1966(昭和41)年7月に「宇部空港」として利用が開始されました。

開港当時の定期便は、東京便1日1往復と大阪便1日1往復だけで、定員も30～40人程度の小型機で運行していました。

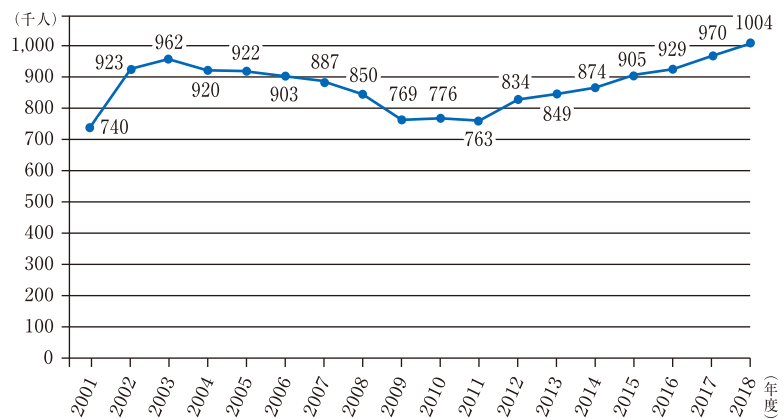
開港後は、大型飛行機が発着可能な滑走路の建設や、国際便が就航できるような環境整備などを行ったりなど、「開かれた山口宇部空港」を目ざして空港機能の拡充が図られています。

年	主なできごと
1966	宇部空港利用開始
1970	東京便2往復
1972	大阪便3往復
1975	東海道・山陽新幹線開通
1977	大阪便廃止
1980	空港名を「山口宇部空港」に改称 国際チャーター便運航開始
1993	札幌便運行開始
1997	沖縄便運行開始
1998	沖縄便運休
2000	空港利用者数1000万人突破
2001	2500m滑走路使用開始 山口きらら博開催
2002	札幌便運休 東京便ダブルトラック化 (全日本空輸5往復、日本航空3往復)
2003	定期便利用者1500万人突破 新山口駅のぞみ停車
2006	開港40周年 新北九州空港開港
2012	山口宇部道路無料化 空港利用者数2000万人突破 岩国飛行場軍民共用化(岩国錦帯橋空港)

◎ 山口宇部空港利用者数の推移

【やってみよう】

- 右のグラフは、山口宇部空港利用者数の推移を表しています。利用客の増減の理由について、右上の年表と関連づけて説明してみましょう。



「山口県統計年鑑 令和元年度版」から作成

(3) 宇部市の国際交流

◇ニューカッスル市(オーストラリア)

ニューカッスル市は、オーストラリアの南東部、ニューサウスウェールズ州の東岸部に位置し、人口約14万5千人の都市で、規模も宇部市と似ています。市の北西約100kmに広がるハンター炭田は、国内で最初に開発され、世界でもトップクラスの品質を誇るハンター炭は、宇部市をはじめ世界各地に輸出されています。その積み出し港として、また、鉄鋼業などの重工業を中心として発展したニューカッスル市は、州内第2の都市です。市のウォーターフロントには、マリーナや店などが並び、美しい海岸線と豊かな自然を求めて多くの観光客が訪れています。現在ニューカッスル市は工業都市から観光都市に変わりつつあるところです。



宇部市は1979年（昭和54年）に『国際社会の調和ある発展に寄与し、姉妹都市提携による総合的な交流を展開する』ということ掲げ、9カ国21都市を候補として、調査・検討を進めました。一方市内主要企業においては、1976年（昭和51年）以来、石油に代わるエネルギーとして、石炭をオーストラリアから輸入し、経済交流が続いています。このような情勢の中、1980年（昭和55年）、22人の市民有志による豪州親善使節団がオーストラリアの数都市を視察・調査し、帰国後、姉妹都市はニューカッスル市が最適であるという報告を提出しました。その後同年宇部市議会にて賛同を得て、ニューカッスル市との姉妹都市提携を決定し、ニューカッスル市において調印式を行いました。

近年では、ホームステイなどを中心に交流を進めています。



◇威海市(中華人民共和国)

威海市は、中国山東省の再東部に位置する人口約250万人の都市です。日本と同じく四季がはっきりし、豊かな自然に恵まれています。また、威海市は中国の「沿岸対外開放都市」の1つで、ハイテク開発区と経済開発区を持ち、絨毯・タイヤ・シルク等の生産が盛んです。また、海岸線が美しい、風光明媚な観光都市として人気があります。



1982年の山口県と山東省の友好都市締結以来、宇部市は山東省から多数の来訪者を迎えて友好交流に参加してきましたが、中国との交流を更に進めるため、山東省の勧めにより、1988年から威海市との交流を進めてきました。1991年11月に威海市長一行が来宇して友好都市締結についての具体的な協議を行ったことを受けて、翌年1992年3月に宇部市から威海市への調査団を派遣、その結果を市議会の各派代表に報告して、威海市との友好都市締結を決定しました。近年では、威海市と卓球チームを編成して大会に参加するなど、スポーツをとおして青少年交流を深めることも行っています。また、コロナ禍の中（2020年）、マスクの寄贈を受けるなど、交流を進めています。



◇カステジョ・デ・ラ・プラーナ市(スペイン)

カステジョ・デ・ラ・プラーナ市は、スペイン東海岸に位置する港町で、バレンシア州の都市では4番目に人口が多く、ほぼ宇部市と同じ、約17万人が生活しています。

カステジョ市は、農業と工業を主要産業としており、主にオリーブを栽培しています。また、カステジョ周辺はセラミック（窯業製品）の生産が盛んです。



2013年5月、カステジョ・デ・ラ・プラーナ市長が、宇部興産株式会社を通じて宇部市長に親書を送り両市の交流が始まりました。その後両市の市長がお互いに訪問するなど交流を進め、2018年7月に、カステジョ・デ・ラ・プラーナ市で、姉妹都市提携誓約書を交わし、姉妹都市となりました。

近年では、記念行事やまつりにおいて、両市の特産品をアピールし、交流を深めています。

